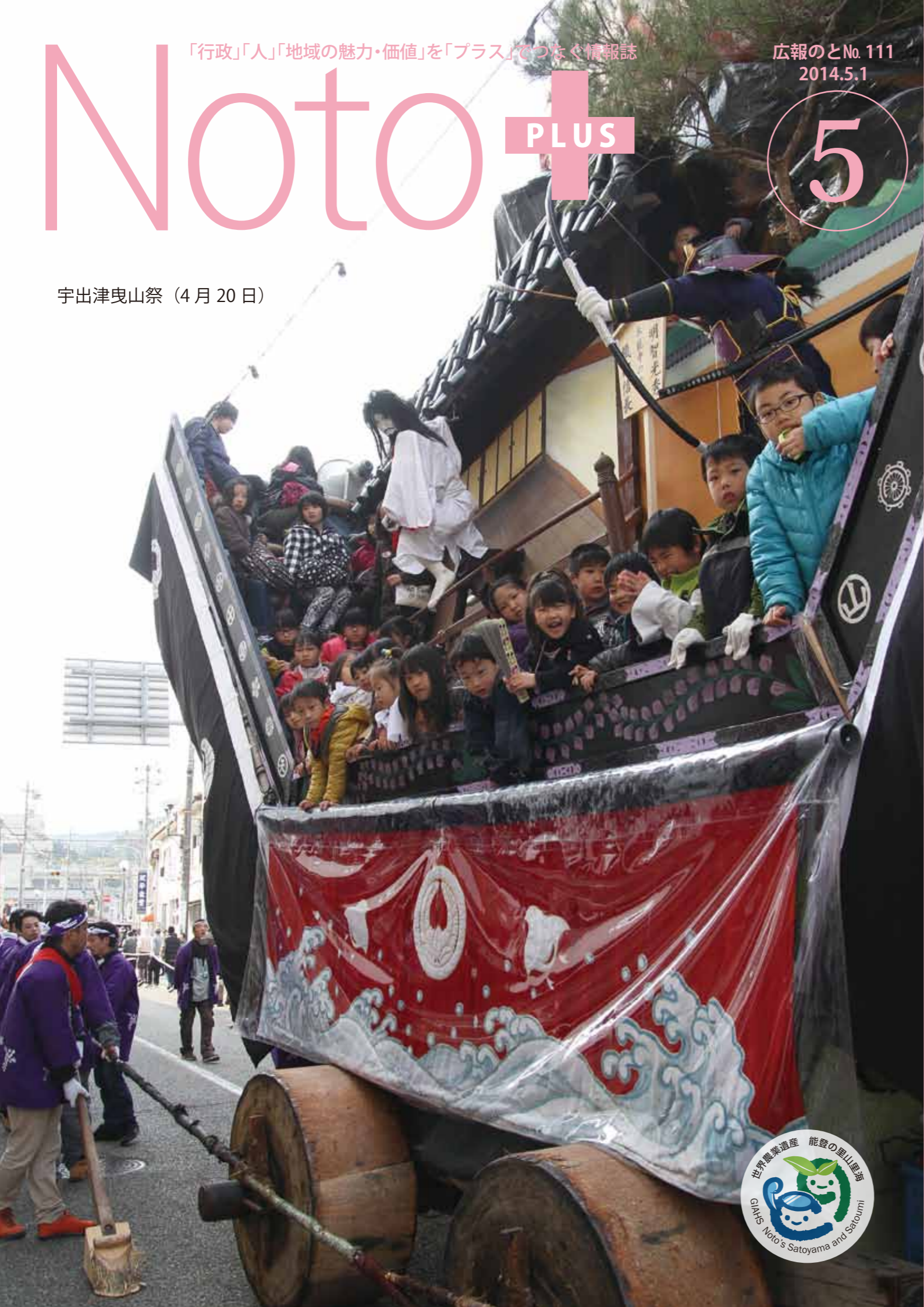


宇出津曳山祭 (4月20日)



広報のと
第111号

平成26年5月1日発行

発行：能登町 編集：広報情報推進課
〒927-1049
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎：0768-62-11000(地)
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp



千尋の浜草

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記⑤ 5月12日、金沢・小松を経て越前へ



①現在の七窪（かほく市）。砂丘地に両側を挟まれているため夏の暑さ、冬の寒風が厳しかったと思われる。②犀川大橋からほど近い場所に鎮座する神明宮（金沢市）。③手取川橋（県道）の付近に渡しがあったと推定。奥に白山を望む。④白鬼女橋は福井県鯖江市～越前市の日野川に架かる橋。橋のたもとに往来の安全を願う観音像が安置されていて、古くから交通の要衝であったことを知ることができる。（写真は全て加藤さん撮影。）

一 一の宮（現在の羽咋市）を出発、鳥居浜つたいに今浜・高松、「うのけ」・津幡、夕方には金沢浅野川橋の宿に向かいます。

はてもなく、思ひ越路の海原と
名にこそたてれ 波のひたひた

今浜から高松に至る砂道、ここに能登加賀の境だといふ「しるしの松」があります。一里半ばかり砂道をゆくと地藏堂があり、この間を「七くぼ」といって、炎天には人馬の足を焦がし、厳冬期は雪吹雪が多いとのこと。津幡より金沢までは四里ほどで、松並や田畑で見渡しのよい道です。

5月13日、浅野川・犀川の大橋を渡り神明宮に向かいます。左に白根山を見ながら、野々市、松任を過ぎ、栢野にて昼食。

きのふけふ 過來しかたをながむれば
目路にぞくもる 雪のしら山

白根山とは白山のことでしょうか。手取川（あをの川）は五月雨の増水期は危ないので、「みなと」というところへまわることもあるそうです。今日は雨でしたが、なんとか越えることができました。翌14日、小松の宿を出発して、大聖寺を抜け「ほそろぎ」の関所を越えて越前（現在の福井県）へと至ります。15日、金津（福井県あわら市）をでて福井の城下に。途中、九頭竜川には橋がなく舟で渡っています。日野川の「白きどの渡り」で再び舟を使い、府中（現在の越前市）に到着しました。



寛政の旅人：加藤吉彦（かとう・えひこ）。寛政9（1797）年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄（かとう・みちお＝写真）。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」5月号の印刷費は一部当たり24円です。

